

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 銀賞

美味しいお米に繋がる税金

加須市立加須平成中学校

二年 堀口 花

「明日は朝から田んぼで、カメムシの消毒しなきゃだな。」

農業を営む祖父が、言いました。私が住む加須市は、「埼玉一の米どころ」で、たくさんのお米が広がっています。昨年と違い、今年は夏休みに入る頃、稲の出穂に合わせて、カメムシの消毒が始まりました。ホースを持って消毒をする人、ドローンで薬剤散布をする人、方法は様々ですが、猛暑のため、涼しい早朝から祖父をはじめ、農家の方々が水田でカメムシ対策をする姿がありました。

カメムシがお米にどのような被害をもたらすのか、農林水産省ホームページによれば、田んぼにいるカメムシは、正式には「斑点米カメムシ類」と呼ばれているそうです。雑草で繁殖し、稲の出穂前後に水田に侵入します。「斑点米カメムシ類」の被害を受けた稲の籾は、黒色または茶色の斑点が生じ、玄米の品質が低下させてしまいます。対策は、出穂前に除草を完了し、適期に薬剤散布を実施します。確かに昨年、私は、籾すりのお手伝いをした時、黒っぽい玄米が混ざっていたように思います。祖父によると、昨年はカメムシで大きな被害が出たしまい、予定よりも美味しいお米の収穫が少なかったようです。また、祖父だけではなく、ニュースなどでも大きく報道され、同じような甚

大な被害が出ていました。これを受けて、国や県、市は、薬剤散布の費用やカメムシを研究する機関の活動を支援することを決定しました。つまり、税金でお米を守ることにしたのです。

私は、この支援策はとても有意義だと感じました。それは、お米は日本人の主食であり、その生産がカメムシの被害で不安定になることは、国民生活全体に影響を与えるからです。税金によって、カメムシ対策の技術開発や農業支援を行うことで、食料の安定供給に貢献できます。

私は、税金の使い道として、適切であることを嬉しく感じます。税金が、私たちの美味しいお米に繋がる。私はこのお米をよく食べ、元気に健康に生活していきたいです。2050年、私が40歳になったとき、65歳以上の方々を、20歳から64歳の私たち1.3人で支えなければならぬという試算が出ています。2000年が3.6人だったので、50年で1/3になっています。みんなが、安定した生活や健康で文化的な社会を実現するためには、みんなで支え合わなければなりません。私は、将来、元気に、健康に社会を支えていきたいです。